

<方法>

本業務では、具体的には次の項目について解析を行った。

(1) 各病院の診療機能に関する解析

上記の医療連携体制を適切に構築するためには、各医療施設の持っている診療機能を明確にする必要がある。各施設が有する強みを生かし、弱みを補い合うことができれば、地域医療の質は向上する。また、医療圏で医療機器を過不足なく所有することが可能になり、当該施設における標榜診療科の医師数が増加することによって、医療の質の向上や、救急診療や夜間診療時の医師数の確保、更には医師の外部流出を阻止する効果も期待できる。

上記の点を統計的に分析するために、本業務では、「平成 17 年山形県患者調査」中の、第 30 表(患者数、70 病院別・入院-外来×傷病(小分類)別)、および第 49 表(患者数、70 病院別・患者の住所地×傷病(大分類)別)に基づいて、各病院の傷病別の患者割合から病院の特色を分析した。がん対策、脳卒中対策、急性心筋梗塞対策、糖尿病対策、および周産期医療対策については、各疾患の患者数と患者割合の双方について分析を実施した。これらの情報に基づいて、傷病・医療圏毎に現時点で基点となっている医療施設について検討した。また、必要に応じて「平成 14 年山形県患者調査」データとの比較解析を行うこととした。

<解析内容>

- 病院毎の患者総数に対する傷病別の患者割合(小分類、総数/入院/外来)
- 病院毎の患者総数に対する傷病別の患者割合(事業毎、総数/入院/外来)
- 病院毎の傷病別の患者数(大分類、総数/入院/外来)
- 病院毎の患者総数に対する傷病別の患者割合(大分類、総数/入院/外来)

(2) 各病院の持つべき診療機能に関する解析

(1)の解析の結果、各病院で特に重視する傷病について集計を行った後に、病院間の類似点および相違点について統計的に解析を行った。具体的には、上記データに対して階層的クラスタリングを実施し、各病院の特徴別にグルーピングを行った。また、主成分分析を行うことにより、病院の機能が顕著に分かれる主成分の特定を行った。これらの結果を医療圏毎に纏めることにより、医療圏における各病院の役割を分析し、各病院の持つべき診療機能や業務提携について考察を行った。

〈解析内容〉

- 傷病別の患者割合に基づく病院のクラスタリング(事業毎、総数/入院/外来)
- 傷病別の患者数に基づく病院のクラスタリング(大分類、総数/入院/外来)
- 傷病別の患者割合に基づく病院のクラスタリング(大分類、総数/入院/外来)
- 傷病別の患者割合に基づく病院の主成分分析(事業毎、総数/入院/外来)
- 傷病別の患者数に基づく病院の主成分分析(大分類、総数/入院/外来)
- 傷病別の患者割合に基づく病院の主成分分析(大分類、総数/入院/外来)

(3) 医師の適正配置に関する解析

(1)および(2)の結果に加えて、「山形県内病院訪問調査」における「医療スタッフ数」および「重要度別必要医師数及び医療スタッフ数」を解析することにより、医師の過不足について調査を行った。具体的には、各病院における医療スタッフ 1 人当たり患者数を算出し、病院間での比較を行った。また、その結果を医療圏毎に纏めることにより、医療圏内における医療スタッフの最適配置について検討を行った。また、「重要度別必要医師数及び医療スタッフ数」については、(1)および(2)によって明らかになった病院の特徴と対比することによって、各病院のニーズがその特色を高めるために寄与しているかについて考察を行った。

〈解析内容〉

- 医療スタッフ 1 人当たり患者数(医療スタッフ毎、総数/入院/外来)

(4) 医療機器の適正配置に関する解析

(1)および(2)の結果に加えて、「山形県内病院訪問調査」における「主な設備」を解析することにより、各病院の医療機器が最適に配置されているかを検討した。特に、医療圏毎に主要な事業に対応できる医療機器が適切に配置されているかについて考察した。具体的には、CT、MRI、およびリニアックについて、その台数の分布を評価した。

〈解析内容〉

- 病院毎の医療機器数(CT/MRI/リニアック)

なお、上記の分析を実施するに際して、各医療圏の特色を評価するために、「山形県内医療施設における患者動向及び医療従事者等に係る現状調査」の情報を参照した。

＜解析に用いるデータ＞

- (1) 平成 17 年及び平成 14 年山形県患者調査(データ CD・報告書・調査票)
- (2) 「山形県内医療施設における患者動向及び医療従事者等に係る現状調査」
(データ CD・報告書)「生涯教育と地域医療」増刊 1 号
- (3) 「平成 18 年度山形県内病院訪問調査」(訪問記録及びデータ CD)

＜参考資料＞

- (1) 山形県の健康と福祉(平成 18 年 5 月)
- (2) 山形県立病院事業分析評価調査業務報告書(概要版)
- (3) 「本県の医療提供体制の基本方向」の概要
- (4) 医療制度改革について

3 結果

3.1 各病院の診療機能に関する解析

医療連携体制を適切に構築するためには、各医療施設の持っている診療機能を明確にする必要がある。各施設が有する強みを生かし、また弱みを補い合うことができれば、地域医療の質は向上する。また、医療圏で医療機器を過不足なく所有することが可能になり、当該施設における標榜診療科の医師数が増加することによって、医療の質の向上や、救急診療や夜間診療時の医師数の確保、更には医師の外部流出を阻止する効果も期待できるからである。

上記の点を統計的に分析するために、まず本業務では、「平成 17 年山形県患者調査」中の、第 30 表(患者数、70 病院別・入院－外来×傷病(小分類)別)、および第 49 表(患者数、70 病院別・患者の住所地×傷病(大分類)別)に基づいて、各病院の傷病別の患者割合から病院の特色を分析した。特に、がん対策、脳卒中对策、急性心筋梗塞対策、糖尿病対策、および周産期医療対策については、各疾患の患者数と患者割合の双方について分析を実施した。これらの情報に基づいて、傷病・医療圏毎に現時点で基点となっている医療施設について検討した。

上記の解析結果は結果の量が膨大であることから、EXCEL ファイルとして別途に纏めた。本報告書では、それらの結果を疾病分類および主要事業のレベルに纏めて、医療施設毎の報告を行うこととした。また、各医療施設で中心的に診療活動が行われている疾病領域を抽出し、さらに、その中でも顕著な疾病については小分類のレベルで記載した。

これらのデータを参照し、医療施設間で比較することにより、その医療機関の特徴や、施設間の類似性および独自性を確認することが可能である。

総計（山形県内、70 病院）

病院毎の患者総数に対する傷病別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
総数	30,799	13,087	17,712	100%	100%	100%
I 感染症及び寄生虫症	761	203	558	2%	2%	3%
II 新生物	3,696	1,822	1,874	12%	14%	11%
III 血液等の疾患並びに免疫機構の障害	171	52	119	1%	0%	1%
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	1,649	252	1,397	5%	2%	8%
V 精神及び行動の障害	4,422	2,999	1,423	14%	23%	8%
VI 神経系の疾患	1,526	873	653	5%	7%	4%
VII 眼及び付属器の疾患	890	110	780	3%	1%	4%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	184	25	159	1%	0%	1%
IX 循環器系の疾患	5,127	2,594	2,533	17%	20%	14%
X 呼吸器系の疾患	1,939	771	1,168	6%	6%	7%
X I 消化器系の疾患	1,879	710	1,169	6%	5%	7%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	593	94	499	2%	1%	3%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	2,198	532	1,666	7%	4%	9%
X IV 尿路性器系の疾患	1,647	403	1,244	5%	3%	7%
X V 妊娠, 分娩及び産褥	277	196	81	1%	1%	0%
X VI 周産期に発生した病態	84	71	13	0%	1%	0%
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	152	69	83	0%	1%	0%
X VIII 症状, 徴候等で他に分類されないもの	502	183	319	2%	1%	2%
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	2,004	992	1,012	7%	8%	6%
X X 保健サービスの利用	1,098	136	962	4%	1%	5%

病院毎の患者総数に対する事業別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
I がん	3,049	1,639	1,410	10%	13%	8%
II 糖尿病	1,010	143	867	3%	1%	5%
III 虚血性心疾患	440	170	270	1%	1%	2%
IV 脳血管疾患	2,748	1,968	780	9%	15%	4%
V 周産期	513	336	177	2%	3%	1%

資料:平成 17 年山形県患者調査

解析結果

平成 17 年山形県患者調査の対象施設における、患者数および患者割合を疾病分類別に纏めた。当該調査における患者総数は 30,799 名であり、そのうち入院患者が 13,087 名、外来患者が 17,712 名であった。

患者数が最も多い疾病は循環器系の疾患であり、総数が 5,127 名であった。これは患者全体の 17%であった。その内訳は、入院患者が 2,594 名であり、全入院患者の 20%を占めていた。また、外来患者が 2,533 名であり、全外来患者の 14%であった。なお、虚血性心疾患および脳血管疾患は循環器系の疾患のひとつとして分類されており、入院患者の 20%のうち 11%は脳梗塞の患者であった。

次に多い疾病は精神及び行動の障害であり、4,422 名(14%)であった。内訳は入院患者が 2,999 名(23%)であり、外来患者が 1,423 名(8%)であった。入院患者が多く、外来患者の約 2 倍であることが大きな特徴であった。入院患者の 23%のうち 14%は、統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害の患者であった。

3 番目に多い疾病は新生物であり、総数が 3,696 名(12%)であった。入院患者は 1,822 名(14%)であり、外来患者は 1,874 名(11%)であった。入院患者と外来患者の比はほぼ 1:1 であった。循環器系の疾患は心疾患と脳血管疾患を含むことに対して、新生物を有する患者のほとんどはがん患者であり、3,049 名(10%)であった。

その他、筋骨格系及び結合組織の疾患(2,198 名、7%)、損傷、中毒及びその他の外因の影響(2,004 名、7%)、呼吸器系の疾患(1,939、6%)が患者数の多い疾病であった。

事業毎の集計では、がんの次に脳血管疾患の患者が多く、総数が 2,748 名(9%)、入院患者が 1,968 名(15%)、外来患者が 780 名(4%)であった。外来患者数に比べて、入院患者の数が非常に多かった。次に糖尿病患者が多く、総数が 1,010 名(3%)、入院患者が 143 名(1%)、外来患者が 867 名(5%)であった。糖尿病患者の多くは外来患者であった。

虚血性心疾患の患者は総数が 440 名(1%)であり、そのうち入院患者が 170 名(1%)、外来患者が 270 名(2%)であった。外来患者の方が入院患者よりも多かった。最後に、周産期の患者は総数が 513 名(2%)であり、入院患者が 336 名(3%)、外来患者が 177 名(1%)であった。周産期の患者の多くは入院患者であった。

No.1 病院（村山地域）

病院毎の患者総数に対する傷病別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
総数	285	186	99	100%	100%	100%
I 感染症及び寄生虫症	5	1	4	2%	1%	4%
II 新生物	13	6	7	5%	3%	7%
III 血液等の疾患並びに免疫機構の障害	1	—	1	0%	—	1%
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	7	4	3	2%	2%	3%
V 精神及び行動の障害	1	—	1	0%	—	1%
VI 神経系の疾患	72	70	2	25%	38%	2%
VII 眼及び付属器の疾患	1	1	—	0%	1%	—
VIII 耳及び乳様突起の疾患	—	—	—	—	—	—
IX 循環器系の疾患	79	53	26	28%	28%	26%
X 呼吸器系の疾患	2	—	2	1%	—	2%
X I 消化器系の疾患	16	4	12	6%	2%	12%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	1	—	1	0%	—	1%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	16	5	11	6%	3%	11%
X IV 尿路性器系の疾患	49	26	23	17%	14%	23%
X V 妊娠, 分娩及び産褥	—	—	—	—	—	—
X VI 周産期に発生した病態	—	—	—	—	—	—
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	1	—	1	0%	—	1%
X VIII 症状, 徴候等で他に分類されないもの	3	2	1	1%	1%	1%
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	18	14	4	6%	8%	4%
X X 保健サービスの利用	—	—	—	—	—	—

病院毎の患者総数に対する事業別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
I がん	8	4	4	3%	2%	4%
II 糖尿病	4	3	1	1%	2%	1%
III 虚血性心疾患	9	—	9	3%	—	9%
IV 脳血管疾患	60	51	9	21%	27%	9%
V 周産期	1	—	1	0%	—	1%

資料:平成 17 年山形県患者調査

解析結果

No.1 病院の患者総数は 285 名であり、そのうち入院患者は 186 名、外来患者は 99 名であった。No.1 病院では入院患者の方が多かった。

最も患者数が多いのは循環器系の疾患であり、患者総数は 79 名(28%)であった。そのうち、入院患者は 53 名(28%)、外来患者が 26 名(26%)であった。具体的には脳梗塞の患者が多く、総数が 42 名(15%)、入院患者が 36 名(19%)、外来患者が 6 名(6%)であった。

次に患者数が多いのは神経系の疾患であった。患者総数は 72 名(25%)であり、そのうち入院患者は 70 名(38%)、外来患者は 2 名(2%)であり、入院患者が大多数を占めていた。具体的には、脊髄性筋萎縮症及び関連症候群の入院患者が 22 名(12%)、パーキンソン病の入院患者が 19 名(10%)であった。

三番目に患者数が多いのは尿路性器系の疾患の患者総数は 49 名(17%)であり、そのうち入院患者は 26 名(14%)、外来患者は 23 名(23%)であった。具体的には、慢性腎不全の患者総数が 39 名(14%)であり、そのうち入院患者が 22 名(12%)、外来患者が 17 名(17%)であった。

No.2 病院（村山地域）

病院毎の患者総数に対する傷病別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
総数	137	107	30	100%	100%	100%
I 感染症及び寄生虫症	—	—	—	—	—	—
II 新生物	—	—	—	—	—	—
III 血液等の疾患並びに免疫機構の障害	—	—	—	—	—	—
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	—	—	—	—	—	—
V 精神及び行動の障害	108	85	23	79%	79%	77%
VI 神経系の疾患	18	16	2	13%	15%	7%
VII 眼及び付属器の疾患	—	—	—	—	—	—
VIII 耳及び乳様突起の疾患	—	—	—	—	—	—
IX 循環器系の疾患	5	4	1	4%	4%	3%
X 呼吸器系の疾患	2	1	1	1%	1%	3%
X I 消化器系の疾患	—	—	—	—	—	—
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	1	—	1	1%	—	3%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	1	—	1	1%	—	3%
X IV 尿路性器系の疾患	—	—	—	—	—	—
X V 妊娠, 分娩及び産褥	—	—	—	—	—	—
X VI 周産期に発生した病態	—	—	—	—	—	—
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	1	1	—	1%	1%	—
X VIII 症状, 徴候等で他に分類されないもの	1	—	1	1%	—	3%
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	—	—	—	—	—	—
X X 保健サービスの利用	—	—	—	—	—	—

病院毎の患者総数に対する事業別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
I がん	—	—	—	—	—	—
II 糖尿病	—	—	—	—	—	—
III 虚血性心疾患	—	—	—	—	—	—
IV 脳血管疾患	5	4	1	4%	4%	3%
V 周産期	1	1	—	1%	1%	—

資料:平成 17 年山形県患者調査

解析結果

No.2 病院の患者総数は 137 名であり、そのうち入院患者は 107 名、外来患者は 30 名であった。No.2 病院では入院患者の方が多かった。

最も患者数が多いのは精神及び行動の障害であり、患者総数は 108 名(79%)であった。そのうち、入院患者は 85 名(79%)、外来患者が 23 名(77%)であった。具体的には統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害の患者が多く、総数が 37 名(27%)、入院患者が 30 名(28%)、外来患者が 7 名(23%)であった。その他には、気分[感情]障害(躁うつ病を含む)、アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害の患者も多かった。

次に患者数が多いのは神経系の疾患であり、患者総数は 18 名(13%)であった。そのうち、入院患者は 16 名(15%)、外来患者が 2 名(7%)であった。具体的にはアルツハイマー病の患者が多く、総数が 14 名(10%)、入院患者が 13 名(12%)、外来患者が 1 名(3%)であった。

No.3 病院（村山地域）

病院毎の患者総数に対する傷病別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
総数	388	169	219	100%	100%	100%
I 感染症及び寄生虫症	2	1	1	1%	1%	0%
II 新生物	12	8	4	3%	5%	2%
III 血液等の疾患並びに免疫機構の障害	1	—	1	0%	—	0%
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	9	2	7	2%	1%	3%
V 精神及び行動の障害	—	—	—	—	—	—
VI 神経系の疾患	20	12	8	5%	7%	4%
VII 眼及び付属器の疾患	—	—	—	—	—	—
VIII 耳及び乳様突起の疾患	—	—	—	—	—	—
IX 循環器系の疾患	105	53	52	27%	31%	24%
X 呼吸器系の疾患	30	23	7	8%	14%	3%
X I 消化器系の疾患	29	7	22	7%	4%	10%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	6	—	6	2%	—	3%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	86	19	67	22%	11%	31%
X IV 尿路性器系の疾患	2	1	1	1%	1%	0%
X V 妊娠, 分娩及び産褥	—	—	—	—	—	—
X VI 周産期に発生した病態	—	—	—	—	—	—
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	—	—	—	—	—	—
X VIII 症状, 徴候等で他に分類されないもの	3	2	1	1%	1%	0%
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	82	41	41	21%	24%	19%
X X 保健サービスの利用	1	—	1	0%	—	0%

病院毎の患者総数に対する事業別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
I がん	11	7	4	3%	4%	2%
II 糖尿病	4	—	4	1%	—	2%
III 虚血性心疾患	4	1	3	1%	1%	1%
IV 脳血管疾患	71	47	24	18%	28%	11%
V 周産期	—	—	—	—	—	—

資料:平成 17 年山形県患者調査

解析結果

No.3 病院の患者総数は 388 名であり、そのうち入院患者は 169 名、外来患者は 219 名であった。No.3 病院では外来患者の方が多かった。

最も患者数が多いのは循環器系の疾患であり、患者総数は 105 名(27%)であった。そのうち、入院患者は 53 名(31%)、外来患者が 52 名(24%)であった。具体的には脳梗塞の患者が多く、総数が 54 名(14%)、入院患者が 39 名(23%)、外来患者が 15 名(7%)であった。

次に患者数が多いのは筋骨格系及び結合組織の疾患であり、患者総数は 86 名(22%)であった。そのうち、入院患者は 19 名(11%)、外来患者が 67 名(31%)であった。具体的には椎間板障害の患者が多く、総数が 22 名(6%)、入院患者が 4 名(2%)、外来患者が 18 名(8%)であった。その他には、脊椎障害(脊椎症を含む)、関節症の患者も多かった。

三番目に患者数が多いのは損傷、中毒及びその他の外因の影響であり、患者総数は 82 名(21%)であった。そのうち、入院患者は 41 名(24%)、外来患者が 41 名(19%)であった。具体的には大腿骨の骨折患者が多く、入院患者が 23 名(14%)であった。その他には、頸部、胸部及び骨盤の骨折(脊椎を含む)、その他の四肢の骨折、その他の明示された部位、部位不明及び多部位の損傷患者も多かった。

No.4 病院（村山地域）

病院毎の患者総数に対する傷病別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
総数	134	21	113	100%	100%	100%
I 感染症及び寄生虫症	1	—	1	1%	—	1%
II 新生物	—	—	—	—	—	—
III 血液等の疾患並びに免疫機構の障害	1	—	1	1%	—	1%
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	8	—	8	6%	—	7%
V 精神及び行動の障害	—	—	—	—	—	—
VI 神経系の疾患	1	—	1	1%	—	1%
VII 眼及び付属器の疾患	106	21	85	79%	100%	75%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	—	—	—	—	—	—
IX 循環器系の疾患	—	—	—	—	—	—
X 呼吸器系の疾患	—	—	—	—	—	—
X I 消化器系の疾患	—	—	—	—	—	—
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	—	—	—	—	—	—
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	—	—	—	—	—	—
X IV 尿路性器系の疾患	—	—	—	—	—	—
X V 妊娠, 分娩及び産褥	—	—	—	—	—	—
X VI 周産期に発生した病態	—	—	—	—	—	—
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	—	—	—	—	—	—
X VIII 症状, 徴候等で他に分類されないもの	—	—	—	—	—	—
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	1	—	1	1%	—	1%
X X 保健サービスの利用	16	—	16	12%	—	14%

病院毎の患者総数に対する事業別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
I がん	—	—	—	—	—	—
II 糖尿病	8	—	8	6%	—	7%
III 虚血性心疾患	—	—	—	—	—	—
IV 脳血管疾患	—	—	—	—	—	—
V 周産期	—	—	—	—	—	—

資料:平成 17 年山形県患者調査

解析結果

No.4 病院の患者総数は 134 名であり、そのうち入院患者は 21 名、外来患者は 113 名であった。No.4 病院では外来患者の方が多かった。

最も患者数が多いのは眼及び付属器の疾患であり、患者総数は 106 名(79%)であった。そのうち、入院患者は 21 名(100%)、外来患者が 85 名(75%)であった。具体的には白内障の患者が多く、患者総数が 33 名(25%)、入院患者が 16 名(76%)、外来患者が 17 名(15%)であった。その他には、緑内障、屈折及び調節の障害、その他の眼及び付属器の疾患の患者も多かった。

次に患者数が多いのは保健サービスの利用であり、外来患者が 16 名(14%)であった。具体的には、全ての患者が、その他の保健サービスの患者であった。

No.5 病院（村山地域）

病院毎の患者総数に対する傷病別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
総数	194	144	50	100%	100%	100%
I 感染症及び寄生虫症	—	—	—	—	—	—
II 新生物	—	—	—	—	—	—
III 血液等の疾患並びに免疫機構の障害	—	—	—	—	—	—
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	1	—	1	1%	—	2%
V 精神及び行動の障害	102	78	24	53%	54%	48%
VI 神経系の疾患	83	62	21	43%	43%	42%
VII 眼及び付属器の疾患	—	—	—	—	—	—
VIII 耳及び乳様突起の疾患	—	—	—	—	—	—
IX 循環器系の疾患	7	3	4	4%	2%	8%
X 呼吸器系の疾患	—	—	—	—	—	—
X I 消化器系の疾患	—	—	—	—	—	—
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	—	—	—	—	—	—
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	—	—	—	—	—	—
X IV 尿路性器系の疾患	—	—	—	—	—	—
X V 妊娠, 分娩及び産褥	—	—	—	—	—	—
X VI 周産期に発生した病態	—	—	—	—	—	—
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	—	—	—	—	—	—
X VIII 症状, 徴候等で他に分類されないもの	1	1	—	1%	1%	—
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	—	—	—	—	—	—
X X 保健サービスの利用	—	—	—	—	—	—

病院毎の患者総数に対する事業別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
I がん	—	—	—	—	—	—
II 糖尿病	—	—	—	—	—	—
III 虚血性心疾患	—	—	—	—	—	—
IV 脳血管疾患	5	3	2	3%	2%	4%
V 周産期	—	—	—	—	—	—

資料:平成 17 年山形県患者調査

解析結果

No.5 病院の患者総数は 194 名であり、そのうち入院患者は 144 名、外来患者は 50 名であった。No.5 病院では入院患者の方が多かった。

最も患者数が多いのは精神及び行動の障害であり、患者総数は 102 名(53%)であった。そのうち、入院患者は 78 名(54%)、外来患者が 24 名(48%)であった。具体的には血管性及び詳細不明の認知症の患者が多く、患者総数が 74 名(38%)、入院患者が 65 名(45%)、外来患者が 9 名(18%)であった。

次に患者数が多いのは神経系の疾患であり、患者総数は 83 名(43%)であった。そのうち、入院患者は 62 名(43%)、外来患者が 21 名(42%)であった。具体的にはアルツハイマー病の患者が多く、患者総数が 80 名(41%)、入院患者が 60 名(42%)、外来患者が 20 名(40%)であった。

No.6 病院（村山地域）

病院毎の患者総数に対する傷病別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
総数	1,139	414	725	100%	100%	100%
I 感染症及び寄生虫症	8	—	8	1%	—	1%
II 新生物	142	58	84	12%	14%	12%
III 血液等の疾患並びに免疫機構の障害	15	5	10	1%	1%	1%
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	70	15	55	6%	4%	8%
V 精神及び行動の障害	4	2	2	0%	0%	0%
VI 神経系の疾患	24	12	12	2%	3%	2%
VII 眼及び付属器の疾患	27	4	23	2%	1%	3%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	—	—	—	—	—	—
IX 循環器系の疾患	191	84	107	17%	20%	15%
X 呼吸器系の疾患	64	24	40	6%	6%	6%
X I 消化器系の疾患	48	19	29	4%	5%	4%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	13	4	9	1%	1%	1%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	177	57	120	16%	14%	17%
X IV 尿路性器系の疾患	91	21	70	8%	5%	10%
X V 妊娠, 分娩及び産褥	40	29	11	4%	7%	2%
X VI 周産期に発生した病態	29	26	3	3%	6%	0%
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	12	2	10	1%	0%	1%
X VIII 症状, 徴候等で他に分類されないもの	15	8	7	1%	2%	1%
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	95	39	56	8%	9%	8%
X X 保健サービスの利用	74	5	69	6%	1%	10%

病院毎の患者総数に対する事業別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
I がん	110	51	59	10%	12%	8%
II 糖尿病	36	7	29	3%	2%	4%
III 虚血性心疾患	24	11	13	2%	3%	2%
IV 脳血管疾患	91	51	40	8%	12%	6%
V 周産期	81	57	24	7%	14%	3%

資料:平成 17 年山形県患者調査

解析結果

No.6 病院の患者総数は 1,139 名であり、そのうち入院患者は 414 名、外来患者は 725 名であった。No.6 病院では外来患者の方が多かった。

最も患者数が多いのは循環器系の疾患であり、患者総数は 191 名(17%)であった。そのうち、入院患者は 84 名(20%)、外来患者が 107 名(15%)であった。具体的には脳梗塞の患者が多く、患者総数が 54 名(5%)、入院患者が 29 名(7%)、外来患者が 25 名(3%)であった。

次に患者数が多いのは筋骨格系及び結合組織の疾患であり、患者総数は 177 名(16%)であった。そのうち、入院患者は 57 名(14%)、外来患者が 120 名(17%)であった。具体的には関節症の患者が多く、患者総数が 64 名(6%)、入院患者が 24 名(6%)、外来患者が 40 名(6%)であった。

三番目に患者数が多いのは新生物であり、患者総数は 142 名(12%)であった。そのうち、入院患者は 58 名(14%)、外来患者が 84 名(12%)であった。具体的にはその他の新生物の患者が多く、患者総数が 31 名(3%)、入院患者が 6 名(1%)、外来患者が 25 名(3%)であった。

No.7 病院（村山地域）

病院毎の患者総数に対する傷病別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
総数	380	100	280	100%	100%	100%
I 感染症及び寄生虫症	7	2	5	2%	2%	2%
II 新生物	23	15	8	6%	15%	3%
III 血液等の疾患並びに免疫機構の障害	4	—	4	1%	—	1%
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	33	1	32	9%	1%	11%
V 精神及び行動の障害	—	—	—	—	—	—
VI 神経系の疾患	9	4	5	2%	4%	2%
VII 眼及び付属器の疾患	18	—	18	5%	—	6%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	1	—	1	0%	—	0%
IX 循環器系の疾患	64	14	50	17%	14%	18%
X 呼吸器系の疾患	26	10	16	7%	10%	6%
X I 消化器系の疾患	32	8	24	8%	8%	9%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	7	3	4	2%	3%	1%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	69	11	58	18%	11%	21%
X IV 尿路性器系の疾患	2	1	1	1%	1%	0%
X V 妊娠, 分娩及び産褥	—	—	—	—	—	—
X VI 周産期に発生した病態	—	—	—	—	—	—
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	1	1	—	0%	1%	—
X VIII 症状, 徴候等で他に分類されないもの	2	2	—	1%	2%	—
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	70	28	42	18%	28%	15%
X X 保健サービスの利用	12	—	12	3%	—	4%

病院毎の患者総数に対する事業別の患者割合

疾病分類	受療数(件)			受療率(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
I がん	17	12	5	4%	12%	2%
II 糖尿病	25	1	24	7%	1%	9%
III 虚血性心疾患	5	—	5	1%	—	2%
IV 脳血管疾患	27	10	17	7%	10%	6%
V 周産期	1	1	—	0%	1%	—

資料:平成 17 年山形県患者調査

解析結果

No.7 病院の患者総数は 380 名であり、そのうち入院患者は 100 名、外来患者は 280 名であった。No.7 病院では外来患者の方が多かった。

最も患者数が多いのは損傷、中毒及びその他の外因の影響であり、患者総数は 70 名(18%)であった。そのうち、入院患者は 28 名(28%)、外来患者が 42 名(15%)であった。具体的にはその他の四肢の骨折の患者が多く、患者総数が 28 名(7%)、入院患者が 9 名(9%)、外来患者が 19 名(7%)であった。その他には、大腿骨の骨折の患者も多かった。

次に患者数が多いのは筋骨格系及び結合組織の疾患であり、患者総数は 69 名(18%)であった。そのうち、入院患者は 11 名(11%)、外来患者が 58 名(21%)であった。具体的には関節症の患者が多く、患者総数が 21 名(6%)、入院患者が 1 名(1%)、外来患者が 20 名(7%)であった。その他には、脊椎障害(脊椎症を含む)、椎間板障害の患者も多かった。

三番目に患者数が多いのは循環器系の疾患であり、患者総数は 64 名(17%)であった。そのうち、入院患者は 14 名(14%)、外来患者が 50 名(18%)であった。具体的には本態性(原発性)高血圧(症)の患者が多く、外来患者が 23 名(8%)であった。その他には、脳梗塞の患者も多かった。